

第5学年「社会」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

成果 ○ 授業で学んだことを、自分の言葉でまとめられるようになってきた。

課題 ▼ 資料を的確に読み取ったり、活用したりすることが難しい。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 資料や知識・理解をもとに、課題に沿った自分の考えをもつ力。
- ◇ 社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する資質・能力を育成する。

具体的な改善策

- 資料の読み取りをもとに、見えること（事実）と言えること（原因や理由、解釈や意味付け）をセットにしてメモしたり発言したりする言語活動を行う。
- 意見交流の時間を増やし、資料をもとに読み取ったことや考えたことを共有して、他者の考えから自分の考えを見直す機会を増やす。
- 学習問題と自分の生活との関連付けを見出す「ふりかえり」を行う。

達成目標

- 国土の地理的環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。
- 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養い、多角的な思考や理解を通して、我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。